

令和3年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価総括表

学校運営計画			総合評価
教育目標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切に、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。		B
教育方針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1 志操と思想を研ぎ、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2 真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3 積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4 人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。		
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標	
昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、年度当初の臨時休業に始まり分散登校及び時差登校の措置を講じるなど、前例のない対応を迫られることの連続であった。しかし、年間授業計画に基づいて授業動画及び学習プリントの作成に取り組んだことにより、授業と予習・復習の関連性が組織的に整理され、系統的な学習の流れを構築することができた。また、電子黒板が設置されたことにより、授業の効率化が加速され、臨時休業での授業の遅れを取り戻すとともに、授業方法に広がりがあった。引き続き、学校内外の感染防止に努めるとともに、熱中症の予防に向けた取組を継続する。そして、移転業務を円滑に進める一方で、法蓮での教育活動の充実とこれまでの地域に対する感謝の気持ちを生徒の中に醸成することを目指す。	○生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○探究的な授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○SSHの「先導的改革型」の申請に向けた取組を推進するとともにシンガポール研修、イギリス研修に代わるグローバルリーダー育成の教育プログラムを進める。 ○常に生徒の安全確保に努めるとともに、生命を大切に、健康を保持増進する能力や態度を養う。 ○学習と部活動等との両立を推進する。 ○これまで本校が発展してきた歴史に思いを巡らせる中で、本校を見守ってくれた地域への感謝の気持ちを育てるとともに、本校の伝統の継承と新たな奈良高校の創造に向けた意欲・態度を育成する。	◇本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇本年度の大学結果の検証に基づき、生徒の進路実現に向けた戦略を検討する。 ◇第4期5年目のSSH事業を企画・運営し、関係機関と連携しながら事業を推進するとともに、「先導的改革型」申請に取り組む。 ◇社会のルールやマナー等の規範意識の醸成に努める。 ◇部活動や各種コンクールへの参加を推進する。 ◇読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇ボランティア活動を推進し、地域での社会参加活動を推進する。 ◇教育相談体制を充実させる。 ◇熱中症予防及び新型コロナウイルス感染防止に向けた校内外の対策を充実させる。 ◇グローバルリーダーの育成をめざし、オンライン等を活用した新たな取り組みを推進する。 ◇ICT機器を活用した授業づくりを推進する。 ◇部活動推進計画に基づいて部活動を推進する。 ◇移転に向けた理解啓発を充実させる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
教務部	教務	昨年度編成した教育課程について、さらに検討を進めていく。令和4年度からの新設科目や再編科目の内容を確認するとともに、主体的に学習に取り組める態度や知識・技能を幅広く活用し、探究する能力を育む教育課程に修正していく。	B	新教育課程における新設科目や再編科目の情報を各教科で検討し、教材を精選できた。観点別学習状況評価については、研修会を実施し、3学期末の成績を対象とした検討を進めている。観点毎の評価方法や5段階評定への算出方法など多くの課題がある。また授業改善への方策も大きな課題である。	新設科目や再編科目、学校設定科目などの内容を教育課程委員会等で常に吟味しながら、時期や単位数、実践方法等の修正を加えていく必要がある。また、観点別学習状況評価については、生徒の学習改善や教師の指導改善に繋がるものとして機能できるシステムを作っていく必要がある。さらに、「深い学び」が進展していく授業改善への具体的な取組も必要である。
		「主体的・対話的で深い学び」を重視し、生徒の学びがより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指す。また、それに伴う、観点別評価の取組やICT機器の積極的な利用方法についても研修を深めていく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
キャリア・マネジメント部	生徒自身の適性把握と、能力伸長をサポートするための方策を企画・実施し、適切な指導と情報提供を計画的・効果的にを行いながら、個に応じた進路指導を行う。	様々な講習、外部講師や卒業生による講演・講話、キャリアホームルーム等の円滑な企画・実施により生徒の意識を高め、模擬試験結果等の効果的分析と生徒への適切なフィードバック、進路相談への細やかな対応により、生徒の自己理解と進路実現への取り組みを支援する。大学探訪等の外部訪問による事業が実施困難な場合には代替事業を実施する。	B	様々な制約がかかる状況の中、卒業生を招いた大学研究会の実施など、臨機応変に生徒の進路意識向上の方策を実施できた。模擬試験等の事前・事後受験の機会を最大限に確保することに尽力し、様々な生徒の進路相談にも丁寧に対応することができた。	年間を通じてほぼ必要な方策を実施できたと考えているが、事業の意義の浸透、事業実施後の生徒への効果的なフィードバック、模試データ等有効活用方法の教員・生徒への提供など、改善が可能・必要なものは多いと認識している。外部の情報や動向も探りながら、現状の見直しと必要な改善の実施に丁寧に取り組んでいきたい。
	様々な情報の収集・分析・検討、分析結果の教員集団への提供と共有、教員の研修機会の充実を図る。	初年度大学入学共通テストに関する細かな分析、様々な模擬試験等から得られる学力・学習の状況と課題分析等を迅速・細やかに行い、研修機会を設けて課題・情報を共有する。対面・オンラインによる教員の外部研修の案内を充実させ、参加を促進する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
生徒指導部	生徒個々の規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。	不注意による遅刻を防止するため、学年・生徒指導部の連携を強め、継続的な指導を行って年間の総遅刻数を減少させる。 また、登下校時における感染症対策を含めたマナーを徹底させる。	C	コロナの感染予防による出席停止扱いという特別な措置もあり、遅刻・欠席の指導が充分に行えなかった。 スマホの利用マナーを強化する必要がある。	毎年行っているネット・スマホ安全教室の内容を犯罪防止の観点を重視した内容にしたい。
	生徒の問題行動を未然に防ぐとともに、発生時の対応・指導を適切に行う。	担任・副担任・学年主任と連携をとり小さな変化を見逃さないように注意する。 また、薬物の怖さやSNSの適切な利用方法を理解させるために、講演会等をおこなう。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
生徒会支援部	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活が送れるようにする。	生徒会(総務委員会)と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。	B	コロナ禍の状況で仮設体育館や電子黒板、ロートアリーナならの施設を利用して、各行事を感染症対策に工夫して運営できた。課題は、地域と連携したボランティア活動が実践できなかったことである。	場所も変わるため、今までと同じやり方、同じ内容を続けるだけでなく、現在の状況に合わせた行事を企画運営するとともに、地域と連携したボランティア活動を模索する。
	地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。	C		
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
人権教育部	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	ワークシートの活用等を取り入れ、講義だけにならないようなHRの実施を図るとともに、従来の題材に加えて、昨今の情勢を踏まえた新しいテーマ・教材の提供にも努める。	A	今年度もコロナ禍のなかで制約があったが、各クラスで工夫してHRの展開をしていただいた。校内の研修は確保できたが、校外での研修は昨年度に続き少なく、不十分であった。	来年度も不透明な状況の中でのHRの実施が予想されるので、臨機応変に対応できるように情報収集に努めたい。 来年度は全国人権・同和教育研究大会が奈良県で実施されることもあり、積極的に参加を呼びかけたい。
	教職員・保護者に各種研修会、学習会等への積極的な参加を呼びかける。	昨年度に比べて校内・校外の研修会や学習会が実施される機会が増えることが予想されるので、多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
教育相談部	生徒がスムーズに学校生活を送ることができるよう、学年・学校全体で協力して生徒を見守り、寄り添えるようにする。	生徒への対応、支援を迅速かつ確に行えるように担当教員・学年と教育相談部が連携する。特に、不登校傾向を早期に把握し、予防的対応ができるように、日頃から欠席や遅刻の状況を確認し、教員同士の連絡をこまめにする。	B	不登校傾向の生徒が増えてきて、早期発見が重要ではないかと思われる。  SCには多大な協力をいただいた。生徒をSCにつなげるようにする。	遅刻・欠席の状況を学年や分掌で共有して、できる対策を早く実施する。  教育相談アドバイザーによる事例検討会を開催する。
	教育相談の専門機関を積極的に活用して、生徒支援と教職員のカウンセリングマインドの向上に活かす。	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーへの連携を密にして、相談活動をして適切な助言を仰ぐ。また職員のスキルアップのための指導助言をいただく。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
文化広報部	総務	育友会と同窓会の活動を支援し、より充実した活動が行われるよう的確に計画を立て遂行する。	B	コロナ感染対策を講じて、WEBでの育友会総会や小人数での役員会等の取組を行うことはできた。年2回の学校通信や同窓会報も発行することができた。	コロナ感染が収束しないことには、行事を実施することは難しい。まもなく迎える百周年記念行事では、学校・同窓会・育友会が連携して取り組むことが成功につながる。
	文化図書	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実行する。 生徒たちが自分の好きな本について語るビブリオバトル、及びドラマ仕立ての朗読会・Voice Bookを実施する。	A		
		外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を実施する。 文化講座、探究系授業、「ゲーテの会」などとも関連させながら、生徒の主体的な活動の機会を設け、自由な発表の場を作り上げる。	B	概ね当初の計画通り実施できた。今年度から始めたVoice Bookも成功させることができた。	校内や教室にポスターを貼るだけでなく、図書委員による放送を通じての呼びかけ等も積極的に行う。
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等
保健体育部	生徒が健康診断や体力テスト等の結果をふまえて、自主的に健康を保持増進できるよう指導を充実させる。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。	C	新型コロナウイルスが予想外の猛威を振るう中、健康診断を2学期に延期したり体力テストを中止したりした。感染者や疑感染者の対応に追われ、十分な取組が出来なかった。	感染症対策は、国や県の方針に従って実施しなければならない。まだまだ予断を許さない状況ではあるが、学校教育活動とりわけ保健体育活動を止めないための創意工夫が必要である。臨機応変に対応していきたい。
	新型コロナウイルス感染者0および引き続き熱中症0を達成する。	新型コロナウイルス感染拡大予防のために実施可能な全ての取組を実践するとともに熱中症予防計画を見直しながら学校全体で取組みを進めていく。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等
環境整備部	教師と生徒が共に協力し校舎内外の環境美化に努める。	総務委員や生活環境委員を中心に生徒たちと連携をとりながら環境美化活動への積極的な参加ができるよう働きかける。	A	A	昨年度に引き続き、コロナ禍以前の活動や訓練の形態ではできなかった。その中でも昨年度の反省を踏まえて、実施時期や実施方法の改善を行った。結果、法蓮最後ということもあって、環境美化の意識や防災意識を高めることができた。	来年度は移転ということもあって、環境美化活動の内容や場所が大きく変わり、また避難経路や防災設備の場所なども生徒職員に早期に把握してもらう必要がある。関係部署とも連携をとりながら、入念な計画および情報の周知に努め、年度当初からスムーズな運営ができるように準備していきたい。
	防災意識の向上に努める。	これまでの避難訓練の課題を踏まえながら「地震の見張り番」を活用したシェイクアウト・火災・避難訓練を実施する。	A			
	校務系端末、教育系端末の安定したネットワーク運営を行う。また、ホームページによる広報活動を各教科・分掌で適切に行えるよう環境を整備する。	県と連携をとりながら、移転によるインターネットインフラの引継・整備を適切に行い、移転後に各端末が安定して利用できるような努める。また、ホームページの運営においても、更新作業が迅速かつ活発に行われるよう、各担当部署との連携を密にする。	A	A	HPの更新頻度は低い。教育系端末においては、貸出が活発化し、利用頻度が増加した。反面、端末の長期占有などの問題が表面化してきた。インフラ整備を進めているが、回答のレスポンスが悪く、進捗が滞る局面がある。	更新頻度が低く、重要性も低いHPは、削除する方向で対応済み。貸出物品に関しては、貸出リストの記入の厳格化や、返却の督促が必要である。移転が間近であるので、インフラ整備等に関する質問で回答が遅い場合は、管理職を含めて適切に対処していく必要がある。
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等
研究推進部	SSH推進	次期申請を見据え、各学年で展開する探究的な授業の改善と検証を進める。	B	B	昨年度に続き、コロナ禍による制約を大きく受けたが、事業の取捨選択や形態見直しを図る好機ともなった。在校生や卒業生の意識調査・分析を詳細に行いながら現状把握と今後の課題明確化を進め、これを踏まえた次期申請手続きを完了した。本校SSH事業運営の持続性(短期的・長期的)を強く意識した体制構築とSSH事業に関わる成果の発信・普及面の大幅改善が課題である。	SSH事業運営の持続性確保に向けては、SSH事業の特質を踏まえた人的配置が不可欠である。その上で、ミドルリーダー層育成を意識した事業運営を行う必要がある。また、事業内容の取捨選択やオンライン化導入加速を図りながら効果的で効率化な事業運営を追求し、働き方改革にも繋げる。事業成果の発信・普及方法の改善については、ホームページ運営のあり方(開設場所・維持管理方法)を根本的に見直した上で、コンテンツ量・種類の拡大を継続する。
	SSH推進	次期申請(先導的改革型)に向けた手続きを完了させる。	A	A		
	グローバル推進	広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバルリーダーの育成を目指す。	文理融合型グローバル探究プログラムを企画・実施する。「トビタテ留学! JAPAN」等、海外留学に関する情報を提供し、海外留学の促進を図る。要請があれば、海外交流団体を受け入れ、本校生徒との交流を図る。	A	A	新規事業として、「グローバル探究プログラム」を実施し、成功裏に終了した。また、コロナ禍により、海外の団体を受け入れることができなかったが、オンラインで台湾の高校と文化交流プログラムを実施した。
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚をもたせる。	生徒が自らの役割を自覚し、集団の一人として責任を持って、高校生として自律した行動をとれるようにさせる。	B	B	高校生としての基本的な生活習慣の確立や、クラスの仲間づくり、行事への積極的な参加等、生徒は徐々に個々の自主性を発揮し、高校生活を充実させるようになってきた。ただ、9月からのオンライン授業や、時差登校の再開などがあり、学習面で負担を感じる生徒も増えるなど、様々な理由で欠席する生徒が出始めている。今後、保護者との連絡をさらに一層密にして、慎重に対応していくことが必要である。	学年集会や講演会については、外部施設や体育館、教室の電子黒板を、これまで通り状況に応じて効果的に使用していくことが求められる。次年度実施予定の修学旅行についても、今後の状況に応じて柔軟に対応していかなければならない。しかし、どの教育活動についても生徒の自主性・創造性を高めるという視点は忘れてはいけない。学年集団のみならず各分掌、保護者との連携が肝要である。
		理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。遅刻・欠席の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。	B			
		自ら進んで行う挨拶を習慣づけ、明るい中にもけじめのある落ち着いた雰囲気のある学習環境を作らせる。	B			
	将来の目標を設定し、その実現に向けて、授業を大切に学習して学力の一層の向上を目指す。	授業中心の学習(予習、授業、復習のサイクル)を習慣化し、自分の学習スタイルを確立させる。定期考査や模擬試験等を積極的に活用し、学習方法を点検させる。	B			
	キャリア・マネジメント部と連携し、生徒が将来の目標を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう、学年集会・キャリア学習HRを計画・展開する。	A				
生徒の学校生活をより充実したものにするべく、各家庭との協力関係を構築する。	懇談等の機会を活用し、日常の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。また、生徒の様子の変化に気づいたときは、早い段階で保護者と連絡を取り合い、各分掌、スクールカウンセラーとも連携しながら適切な指導を行う。	A				
学年団として意思の疎通を図り、まとまりのある教員集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、他学年の組織とも連携し、情報を共有する。	B				

第2学年	基本的な生活習慣を身につけ、はじめのある生活態度を身につけさせる。	理由のない欠席や遅刻をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。欠席や遅刻の理由によっては、教育相談部やスクールカウンセラーと連携する。感染症防止のためのマナーやスマートフォン利用のマナーを徹底させる。授業のみならず学校行事における5分前行動を励行させる。	B	B	全くの怠惰や理由のない遅刻・欠席は少ないが、家庭や人間関係のストレスを理由に欠席が多い生徒が増えている。また生徒の規範意識の薄さから、生徒(特別)指導に入る者も一時期連続した。関係教師の丁寧な指導により、反省・改善はできたが。	コロナ感染予防によるマスク着用、リモート授業で生徒の様子・変化が把握できにくくなっている現状のなかで、各担任は、保護者も含めて丁寧な対応をしている。オーバーワーク気味ではあるが、今後もその姿勢を継続するしかない。
	将来の目標を具体的に設定させ、持てる能力を発揮できる進路選択をさせる。	機会があるごとに個人面談を行い、適切な進路選択ができるよう指導する。キャリア部と連携をとり、適切な時期に効果的なホームルーム行事を計画・実行する。	A		個人面談、進路HRともに電子黒板やキャリア部からの充実した資料を用いて、生徒が納得して進路選択できる環境は整えられたが、自己の目標実現に向けて軌道に乗っている生徒は多くはいない。	2学期になり、学校行事とリモート授業や修学旅行の変更が重なったなかでの科目選択、進路指導は多忙であった。3年生では、早い時期に生徒1人1人に向き合える時間を設定していきたい。
	情報を共有し、学年運営を円滑にする。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・連絡・相談を密にし、必要があれば教科・分掌、委員会とも連携して、生徒の情報を共有する。また、学校行事や生徒指導においては、他学年と協力して、その取り組みを遂行する。	B		学年・分掌・教科間の連携を図り、情報交換していく姿勢であったが、日々変化する情勢の中で、他分掌、他学年の取り組みが分からないこともあった。	来年度当初は、新しい校舎や校務場所にとまどうこともあるだろうが、出来るだけ早期に計画的に学年間分掌間の連携を取って校務運営を図ることが肝要。
第3学年	主体的な進路の実現	個別面談を通じて進路実現への意識をしっかりと持たせる。キャリアマネジメント部と連携をとり、適切な時期に効果的な進路行事を計画・実行する。	A	B	生徒は各担任及び当該分掌との面談の機会を十分もち、自分の進路希望を確立できた。このコロナの時期に行事等が急遽変更が生じたりしたが、キャリアマネジメント部より適切に指示があつてよかった。精神的に脆弱さを認める生徒が多く見られたが、家庭との連絡を密にして適切に対応できたと思う。今年度は地域からの苦情の件数が少なかったように思う。	特に3年生に対しては直前に迫った受験に対して、個人的に適切な助言が行われていた。しかし、その前に全体的な指導による意識の醸成があればと思った。来年度から学年集会ができるということで、これを活用していきたい。来年度は新しい環境の下で学校生活を送ることになる。生徒たちに地域の一員としての意識を常に持って欲しい。
	適切な連携による教育相談、生徒指導	生徒に関わる情報を共有し、必要があれば教科、分掌、委員会、スクールカウンセラーと連携する。生徒の変化に気づいた場合は、迅速に保護者と連絡を取り対応する。	B			
	基本的な生活習慣の醸成	怠惰による遅刻は、一定の基準を設けて厳しく指導する。法蓮の地で学ぶことが後1年になった現在、「地域のなかの学校」の意識をHRを通じて提起し、登下校のマナーの向上につなげていく。	B			